

## 平成 28 年度第 1 回公立大学法人滋賀県立大学経営協議会議事録

日時・場所：平成 28 年 6 月 20 日（月）13 時 30 分～15 時 35 分 評議会室

出席者：大田理事長、堺井副理事長、廣川理事、濱崎理事、倉茂理事、上原委員、  
小出委員、須江委員、高橋委員、渡辺委員

欠席者：村山委員

事務局：木村事務局次長、山田総務グループ統括、三和田財務グループ統括、吉村経営企画グループ統括、北村学生・就職支援グループ統括、藤川教務グループ統括、草川地域連携推進グループ統括、中川副参事、青笹主任主事

議事に先立ち、大田理事長より、定款第 18 条第 2 項第 4 号に規定する委員に対して、委嘱状が交付された。その後、委員および事務局職員の自己紹介があった。

### 【議 題】

#### （1）平成 27 事業年度業務の実績に関する報告書（案）について

理事長、副理事長、および各理事より資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。委員からは、以下のような意見があった。

- ・男女共同参画に関する計画およびその評価が甘くはないか。
- ・未来人財基金について、大学側がどのくらいの熱意を持っているのかが見えにくい。企業から寄付を集めるには、COC+と関連させるなど、未来人財基金のストーリーを見せるような工夫が必要なのではないか。
- ・地域経済振興については、知識を持っているだけでなく地域の実情に合わせて動ける人材が重要となってくる。そのような人材の養成のためには行政や地元経済界とのかかわりが不可欠である。
- ・研究について、大型研究プロジェクト獲得のための予備的研究は科研費の基盤(B)以上の獲得を目指しているということであるが、基盤(B)では規模が小さすぎるのではないか。基盤(A)や基盤(S)を目指すべきではないか。

#### （2）平成 27 年度決算および事業報告について

三和田財務グループ統括より資料に基づき説明があり、原案どおり承認された。

#### （3）経営協議会からの理事長選考会議委員の選出について

経営協議会からの理事長選考会議委員の選出について、木村事務局次長より資料に基づき説明があった。協議の結果、小出委員、須江委員、渡辺委員、および堺井委員が選出された。

## 【報告事項】

### (1) 平成 28 年度予算執行方針および予算執行計画について

資料に基づき三和田財務グループ統括から報告があった。委員からは、デザインカレッジは民間団体を連携の対象とした方が、ニーズとのマッチングがしっかりできれば出資してでも連携をするはずであり、より効果的にソーシャル・アントレプレナーの養成ができるのではないかという意見があった。

### (2) 広報推進にあたっての事務局体制について

資料に基づき木村事務局次長から報告があった。委員からは、以下のような意見があった。

- ・広報戦略にはブランディング・プロデューサー、PRディレクター、パブリシティ・コーディネーター3つのキーマンが必要であるが、今回の計画にはそれらが見受けられない。
- ・「県大の強み」は学内だけでわかるのか。県大だけでなく、滋賀県や彦根や田舎の良さも組み込むべきではないか。
- ・選ばれる大学となるためには受験生の保護者の心をつかむ必要があるのではないか。

### (3) 平成 27 年度卒業・修了者の進路状況等について

資料に基づき北村学生・就職支援グループ統括から報告があった。

## 【資料配布】

### (1) 平成 28 年度法人職員採用試験の実施について

### (2) 平成 28 年度各入学試験の結果の概要について

## 【その他】

### (1) 次回以後の経営協議会開催日程について

吉村経営企画グループ統括から、例年9月、12月および3月の経営協議会は第1月曜日の13時30分から開催しているが、今年度は理事長選考日程の関係で9月については第1月曜日(9/5)の開催が難しく、日程が変更となる可能性があることが説明された。

## 【意見交換】

「地方創生における滋賀県立大学の役割」をテーマとして意見交換を行った。

(主な意見)

- ・大学が地域に対して行う貢献だけでなく、大学が地域から受けている貢献についても考えてはどうか。

- 地域創生に貢献できる人材が育っても、就職先がなければ定着せず、長期的な関係を築きにくい。
- COC+のような取組みは、もし国からの補助金が出なかったとしても、民間企業が出資したくなるような事業計画とするべきである。
- 学生にはぜひ、地域のコーディネーターの役割を担える人に育てほしい。そのためには、地域活動の中でチームの事務局的な仕事を通じて人脈と情報が集まる場を経験し、地域をまとめる力を育てほしい。
- 大学の中心は学術である。地域貢献は「学術」の中の「術」に属する。「術」に走りすぎると基本である「学」を見失うこともあるので注意されたい。